

コッコロ 通信

vol.22
2011/3



コッコロ



いじわるは北風みたいに傷つける。
優しさは陽だまりみたいに温かい。
みんなの心がぽかぽかする。



「だいじょうぶ 心配ないよ」の一言で
うまれる絆 あふれる勇気

もくじ

- 2～3P 特集 「人権」の話をしよう!
- 4P 平成22年度人権メッセージ優秀作品紹介
- 5P 人権啓発イベントレポート 「コッコロギャラリー ～人権啓発のひろば～」
「樋口了一さんの人権トーク&ライブ」
- 6P 身近な人権活動 「ホームレスの人権について」
社会福祉士 吉松 裕藏 さん
- 7～8P お知らせ

あなたは『人権』を どうとらえていますか?

今回は、漫画家の桜田幸子さんと村田熊本県副知事に、「人権とは何か」についてわかりやすく語り合っていました。



人権は自分自身の問題

村田 桜田さんは、「人権」についてどんなイメージをお持ちでしたか?

桜田 「人権」って漢字2文字で難しいイメージがあり、机の上で学んだことが、なかなか日常感覚とつながらないですね。でも今回人権漫画に取り組んで「こんなことも人権なんだ」と気づかされました。

村田 人権とは、誰もが生まれながらに持っている、自由、平等、幸福を追求する権利なんですが、現実社会の中では、夫婦間の暴力や幼児の虐待、学校でのいじめなど、私たちの日常の中の身近な課題です。

ところで、桜田さんの人権4コマ漫画の基本となるものは何ですか?

桜田 わかりやすい形で「愛」を伝えることですね。漫画であることで、興味がなかった人が「これも人権なんだ」と気づく第一歩になればいいと思っています。うちの息子なども、「俺には関係にやあ」って言いますから(笑)。

村田 誰にでも「関係ない」という気持ちがあるんですね。

でも大切なのは、自分自身の問題と捉えることではないでしょうか。よくよく振り返ってみると、知らずに誰かを傷つけるようなことをしているかもしれません。私も例外ではないと、常に自問自答しています。

お互いの個性を認める

村田 人権を考えると、いろんな立場の人の存在を知ることが大切です。お互いが違いを認めたくて、どうつながっていくかを考えることが大事だと思います。

桜田 違いを「個性」と捉えればいいでしょけど。今は、ちょっとでも違うと仲間はずれにされるような所がありますよね。

村田 なるほど。

桜田 差別や偏見とは、小さい頃から無意識のうちに刷り込まれることが多いですからね。「〇〇ちゃんはみんなと違う」と言う子どもに対し、「それは〇〇ちゃんの個性だからいいんだよ」と周りの大人が言ってあげることが大事だと思います。

村田 ふだん何気なく言っている言葉が、子どもの意識に影響する。「お父さんみたいになるわよ」と(笑)。

桜田 私にも3人の子どもがいますけど、色々な違いを個性として



村田 信一 熊本県副知事

昭和25年7月19日生まれ。
熊本大学法文学部卒業。
昭和48年4月熊本県入庁。総務部、商工観光労働部、環境生活部等を経て平成21年4月から副知事。



認め、地域社会のみんなとどう共存していくかが大事だと思っています。

相手を大事に思う心を育てる

村田 ご覧になった方もおられると思いますが、インターネット上には、想像を絶する差別やいじめが溢れています。これは、顔が見えないだけに恐ろしいことだと思います。

桜田 今の子どもたちは小さい頃から情報過多の中で育ちます。ですが、周囲の温もりに包まれていることで、無機質な情報の中から正しいことを選び取れると思います。

村田 子どもたちが愛情豊かな環境で育つことは、相手を大切に思う心を育てる上で大事ですね。

それから、どんなに学校で学んでも家庭で反対のことを教えては何にもならない。学校で「歩道橋を渡りましょう」と教えられても、大人が平気で車道を横切るのを見たら、子どもたちは「大人になったら道路を横切っていいんだ」と思うでしょう(笑)。

桜田 そうですね。どんなに学校で学んでも、家庭での大人の行動が、子どもの意識を壊している部分も多いと思います。

子育てをしている方々にも、身近な人権問題にぜひ気づいていただき、子育ての中で意識していただきたいですね。



桜田 幸子 さん

昭和38年、熊本市生まれ。短大卒業後、幼稚園に勤務。結婚と同時に退職。平成7年より熊本日日新聞社「くまにちすぱいす」(現すぱいす*spice)に4コマ漫画「おっぱいの達人」を連載。テレビ、ラジオ出演、公演等、幅広く活動中。

熊本県の取組み

桜田 県ではどのような人権啓発の取組みをされているんですか？

村田 講演会や研修会の実施、新聞やテレビ、ラジオでの啓発などのほか、今年は、県出身のシンガーソングライター樋口了一さんに、人権啓発の歌「この街を笑顔で包もう」を作っていただきました。とてもやさしい気持ちになる歌ですよ。

残念ながら本県でも、いじめや虐待のほか、水俣病に関する差別発言などが起きています。また、同和問題については、出身地による結婚や就職差別があることから、結婚や就職の際に身元を調査することを禁止する条例を制定しています。「調べよう」という発想そのものが問われなければならないのですが、色々な場面で啓発し続けることが大切だと考えています。

これからも、私たちは人権問題と隣り合わせにいたいことを訴えかけていきたいと思っていますので、桜田さんにもぜひ、日常生活の中でのヒントを描いていただければと思います。

ココロの達人 桜田 幸子





平成22年度 人権メッセージ優秀作品介绍

平成22年度の、「人権メッセージ『あなたのひとこと』募集」には、県民の皆さんからの多くのご応募をいただきました。(応募総数は昨年度よりも約3,000点多い、11,117点でした。)どの作品も、自分自身の人権意識を見つめ直す言葉や、相手を思う言葉、そして豊かな人間関係を創る言葉など、人権感覚にあふれたすばらしいメッセージでした。

表彰式

応募作品の中から、審査により優秀作品を選定し、平成23年1月22日(土)開催の「熊本県人権フェスティバル」にて表彰を行いました。今回は優秀作品に選定された作品をご紹介します。

メッセージの活用

このメッセージを皆さんの人権啓発の取組みにもご活用ください。(その際には、人権同和政策課にご連絡ください。)



- その判断は大丈夫? 見ため 決めつけ 人のうわさ
- あなたの言葉 あなたの笑顔で いつも誰かが 救われる。
- 自分の心 見つめて摘み取る 差別の芽
- ありがとう。その一言で救われる。ごめんね、その一言で優しくなれる。
- 広げよう笑顔のリレー 優しい心のバトンタッチ。
- 言わないよ 人がかなしくなることば えがおがいちばんたいせつだから。
- 認めアイ 譲りアイ 分かちアイ いろんな愛で 満たそうよ
- わたしのハート 小さいけれど みんなをえがおに できたらいいな
- 人をけなすことは容易いこと。自分を^{たやす}見つめなおすのは難しいこと。その事に気づくのはすばらしいこと。





レポート

人権啓発イベントレポート

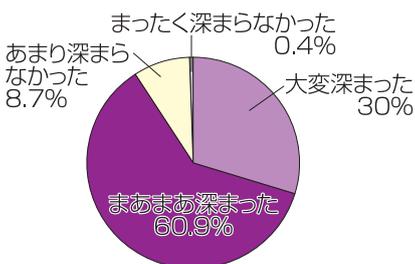
ココロギャラリー ～人権啓発のひろば～を開設しました!

平成22年12月4日(土)12時から「びぶれす広場」において、「ココロギャラリー ～人権啓発のひろば～」を開設し、約300人の皆さんにご来場をいただきました。

パネルコーナー 「水俣病をめぐる人権」等のパネルの展示をしましたが、その中でも「対岸の肖像～BURAKUとのかけ橋～」の写真パネルは、「顔が見える形で、その人のメッセージが書いてあり、とても印象的でなおかつ分かりやすかった」と、ご好評をいただきました。

その他のコーナー CMコーナーでは、熊本県や九州各県等で制作放送されたCMを上映し、人権メッセージコーナーでは、たくさんのメッセージをいただきました。

アンケート結果 今回のイベントに参加し、人権問題について感心や理解が深まったと回答された方が全体の90.9%を占め、今回のイベントが「人権」について改めて考える「きっかけ」作りになったようです。



今回のイベントに参加して、人権問題についての関心や理解は深まりましたか?



「人権トーク&ライブ」を開催しました

平成22年12月7日(火)県庁新館ロビー「県民の広場」において、「人権トーク&ライブ」を開催しました。

熊本県出身のシンガーソングライター・樋口了一さんが、ご自身の経験などから、「人権はお互いに関わり合うもの」と語られ、そして「心豊かな熊本」を願って作られた人権啓発の歌「この街を笑顔で包もう」を披露されるなどとても心温まるトーク&ライブになりました。

当日はたくさんの皆さんにご来場いただきありがとうございました。今後も皆さんの心が暖かくなるような人権啓発に努めていきたいと思っております。





身近な人権活動

～人権問題についての様々な
取り組みをご紹介します～

ホームレスの人権について

近年の経済・雇用情勢等を背景として、ホームレスが増加して、大きな社会問題となっています。また、ホームレスというだけで差別を受けたり、嫌がらせや暴行の対象になるなど、人権侵害の問題も起こっています。

今回は、社会福祉士として、ホームレスを支えてこられた、吉松裕藏さんの平成21年度のラジオ番組の内容を、再構成してご紹介します。



Q なぜ、ホームレスになるのでしょうか？

A 事情は一人ひとり違います。他人の保証人になったばかりに家を売り払った人、派遣切りにあって戻る家のない人、刑務所から出所してきて住む家のない人、経営していた会社が倒産した人など、本当に様々です。もちろん、好きでホームレスになった人はいません。強がってそういうふうにする人もいなくはないですが、みんなそれぞれの事情で仕方なくホームレスに追い込まれた人たちなんです。

Q どんな活動をされていますか？

A NPO法人くまもと支援の会の会員として活動しています。支援の会では相談や炊き出し、アパートに入る際の身元引受人になったりしています。住所がないから仕事を探すことができない。仕事がないからお金がない。お金がないから住む家が確保できないといった悪循環を断ち切ることが目標なんです。それから、もう一つ大切なことがあります。それは孤立しないということです。安心して生きていくためには、周囲の人と「つながる」ことも大切だと思います。ですから、アパートに住むようになるだけでなく、その地域で孤立せずに生きていくことができるかが大切だと思います。

Q 最後に、支援活動を通じて感じたことをお聞かせください。

A 「ホームレス問題は、個人の問題ではなく、社会の問題でもある」ということに、気づいて欲しいと思います。現代の人間関係の希薄さがホームレスを生み出す原因の一つであり、これはいじめや虐待など、他の問題にもつながると思います。私たちは、つながりを大事にする社会の大切さに気づき、人間関係の希薄さを見直す必要があるのではないのでしょうか。私たちの活動が、困っている人を見て見ぬふりをしない社会、地域で助け合う社会につながることできたらと思っています。

NPO法人くまもと支援の会

ご利用時間 10:00～19:00 (相談受付13:30～16:00)

※毎週月・木曜日は炊き出し等を行っています。
その他、法律相談、医療相談、散髪等も行っております。

〒862-0950 熊本市水前寺6丁目36-4

電話：096(385)6299

FAX：096(202)4624





お知らせ

新着図書・DVDのお知らせ

- ◎図書・DVD(ビデオ)は、人権センター内で自由にご覧いただけるほか、無料貸出しも行っていきます。是非ご利用ください。
- ◎DVD(ビデオ)は、利用希望日の前月から予約ができます。

図書

部落差別をこえて



臼井敏男 著

元新聞記者である著者が、現在の被差別部落について、33人の人たち取材し、新聞の連載記事に加筆した書です。いまだに消えない部落差別をのりこえようと、部落の内外の人々が手を結び、共に行動している姿を伝えています。

ビジュアル部落史



大阪人権博物館 編

部落史学習用教材として、写真や図版を多用し、古代から現代にいたる長期的な視点から日本社会における部落差別と、それと闘った運動をはじめとして、産業や思想など様々な角度から簡潔に解説してあります。

だいじょうぶ3組



乙武洋匡 著

5年3組の担任としてやってきたのは、手と足がない先生、赤尾慎之介。『五体不満足』の著者である乙武洋匡が、都内の公立小学校で3年間、教員として過ごした実体験をもとにした小説です。障がいを持った先生が、体当たりでクラスの子どもたちとぶつかっていく様子を描いています。

認知症高齢者の心がわかる本

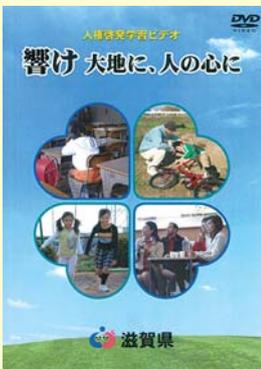


平澤秀人 著

「認知症には、症状の進行につれて変化する4つの心のステージがあった！」認知症特有の問題行動について、分かりやすく図解で解説してあります。4つの心のステージの特徴をつかむことで、患者との向き合い方が見えてきます。

DVD

響け 大地に、人の心に



ドラマ編と解説編の2部構成となっており、ドラマ編では、子どものいじめや、日本で働く外国人の日常生活を通して、偏見への気づきや行動の大切さを伝えています。解説編では4つの課題を設定し、各課題の後半ではアグネス・チャンさんが人権に対する自分の考えを語りかけます。

見てわかる 改正均等法のセクハラ対策



気づこう！職場のセクシュアル・ハラスメント
～これってセクハラ？ なぜそれがセクハラ？～
性別や雇用形態を問わず、誰もがセクハラに加害者にも被害者にもなり得る中で、どのような言動がセクハラになるのかを、状況別にドラマ形式で分かりやすく解説しています。

図書・DVD(ビデオ)・啓発パネル一覧を、人権センターホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/jinken/>

がんばってます 阿蘇市人権フェスティバル

平成22年12月3日(金曜日)、阿蘇市立阿蘇体育館において「阿蘇市人権フェスティバル」を開催しました。このイベントは、人権意識の普及・高揚を図ることを目的として、毎年、人権週間に合わせて開催しています。

当日のステージの部では、「鼓隊」の演奏や合唱等のオープニングイベントをはじめ、徳島県人権啓発青少年連絡協議会の中倉茂樹さんによる講演会、人権擁護委員の皆さんによる「人権劇」を行い、来場の方々に大変ご好評をいただきました。

また、展示の部では、人権啓発パネルの展示のほか、市内小中学生から募集した標語やポスター、市民の皆さんから寄せられた男女共同参画川柳等を展示し、様々な人権問題を考えるきっかけとなっています。さらにホールでは、平成21年度から障がい者支援施設の皆さんによる物品販売を行い、フェスティバルを通じて交流を深めています。

これからも、市民の皆さんが、気軽に参加できて、より理解しやすいフェスティバルを開催していきたいと思っています。



内牧保育園による鼓隊演奏

人権に関する
相談をお受け
しています。

熊本県人権センターでは、相談員が面接や電話による人権に関する相談をお受けし、助言や情報提供を行っています。(相談は無料。プライバシーは守ります。)

相談時間 9:00~12:00 / 13:00~16:00

下記の相談専用電話にご連絡ください。

熊本県環境生活部人権同和政策課(熊本県人権センター)

住所 〒862-8570 熊本市水前寺6丁目18番1号 [熊本県庁行政棟新館2階]

開館時間 8:30~17:15

休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始

電話 [直通] 096-333-2299 [相談電話] 096-384-5822

F A X 096-383-1206

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/site/jinken/>

電子メール jinken@pref.kumamoto.lg.jp

相手を思いやる気持ちの
あたたかさ、やさしさを伝えます。



熊本県人権啓発
マスコットキャラクター「コッコロ」